新・山と花のたより 275号

２０２３年９月１５日　　松尾　忠
メールアドレス　tadashi6414@smile.ocn.ne.jp
ＨＰhttp://yama-to-hana-no-tayori.sakuraweb.com/

快晴の下、富士を眺めながらの尾根歩き　　８月 18 日　大菩薩嶺(2056.9m)登山

連日の猛暑、豪雨、台風と異常気象が続く日本列島、その酷暑の日常から涼しい山へと、10 人余に呼びかけて、計画は立てたが、台風による交通網の混乱は当日まで続いていた。

荒れ続きの天候、乱れる交通体系、その隙間をすり抜けるように

８月 17 日、近鉄で名古屋へ。JR 東海道線は新幹線も含めて台風後の混乱調整中だが、私たちを乗せた特急信濃 5 号は予定通り 9:00 発車し、塩尻乗換えで 13:15 山梨県・甲斐大和駅に到着。無人の小さな駅だが、駅前のこぎれいな食堂で昼食を済ませ、14:50 発バスで上日川(かみにっかわ)峠に。バス停前のロッヂ長兵衛に投宿。バスも貸し切り状態だったが、宿泊客も私たち 3 人だけ。部屋も食事も風呂も女性達の評価は○。宿泊届けを見た宿の主人は、まず年齢を確認し、次に「奈良を朝出たら、この時刻に来れるのか」としきりに感心。そして「昨日までずっと雨、今日も午後強い雨が降った。明後日からまた雨。明日だけは珍しく晴れる」と嬉しいことを言ってくれる。

↑キツリフネ

↓コウリンカ

天があつらえてくれたような快晴

翌 18 日 6 時に朝食、6 時 30 分出発。絶快晴。私たちの山行を祝福してくれているかのよう。宿の出口でシロスジカミキリが見送ってくれる。早速路傍にシャジンとホタルブクロが。これからの花々との出会いに期待が膨らむ。林道を歩いて 7 時ふくちゃん荘着。小屋の周りの花々をカメラにおさめ、林の中の斜面をゆっくり登る。

ブナ、ミズナラ、カラマツ、カエデなどが混じる森は風が通り、心地よいが傾斜は急、喘ぎあえぎ登る。突然コウリンカの花が現れる。紅輪花。キク科コウリンカ属。高山・高原の花。

↓シロスジカミキリ

シャツの背中から離れない蝶

8:40 雷岩着、南に雲海を従えて富士山がそびえている。歓声をあげて写真を撮り **8:57 大菩薩嶺到着。標高 2056.9m・100 名山**。林の中の山頂で記念写真

←キベリタテハ

を撮ってすぐ下山。　再び雷岩に戻って休憩。トンボが飛び、キベリタテハ、ヒョウモンチョウなどが舞っている。汗ばんだシャツにキベリタテハが張り付く。何らかのミネラルでも摂っているのだろうか

↓マルバダケブキ

明るい笹原の尾根道

蝶との別れを惜しみつつ、大菩薩峠めざして歩き出す。富士山を眺めながらの尾根歩きは快適。斜面にひろがる緑の笹原、その中でオレンジのコウリンカと黄色のマルバダケブキの花が目立っている。

ハナイカリ、ワレモコウ、オトギリソウらも各所に花を見せ、楽しい尾根歩きの道だ。

絶滅寸前の花々

だが前回時には咲いていたヤナギランやマツムシソウが金網フェンスの中だけにしか見当たらない。シカが食べてしまうそうだ。そういえば、山頂近くで出逢った鹿はよく太っていた。

様変わりした景観を惜しみ、生態系の変化を懸念しながら 10:45 大菩薩峠着。標高 1897m。小説「大菩薩峠」の著者の名をとったのだろう山小屋「介山荘」が営業していて、登山者がアイスクリームなどを食べている。休憩後カラマツやミズナラの混じる森の中を涼風を受けつつ下る。11:50 ふくちゃん荘着。登山道を順調に下って 12:35 ロッジ長兵衛に帰着。

思い起こす冷涼の２日間

下りのバスは想定外の満員、補助席も総動員したバスは人いきれで暑苦しい。「ああ!!あの炎暑の日常に戻るのか」と思い、そこから抜け出しての冷涼の山旅２日間が改めて有難く思い起こされた。

追悼　松尾治

弟・松尾治がこの写真を撮った場所は白谷丸。

大菩薩峠の南に小金沢連嶺と呼ばれる山脈が２千メートル級の峰々を連ねて続いており、その一つのピークが白谷丸。時期は２月。雪面に風が刻む芸術＝シュカブラ(風雪紋)と富士山の取り合わせが絶妙ですね。